

エコニュース さって



第 6 8 号
平成 29 年 2 月 15 日
さって市民環境ネット
TEL 48-0331

第 2 回市民環境講座・環境学習見学会

報告：坂本

— 渡良瀬遊水地、ヤクルト茨城工場 —

11月18日（金）朝9時、バスは幸手市役所を出発しました。天気は秋晴れ、風もなく、絶好の見学会日和です。一行は、市民20人、市民環境ネットのスタッフ6人、市役所環境課の職員2人の総勢28人です。目的地は、午前中が渡良瀬遊水地（栃木、茨城、群馬、埼玉）、午後がヤクルト茨城工場（茨城）です。

渡良瀬遊水地の面積は33平方キロメートル、広い土地です。幸手市の面積とほぼ同じです。まず、谷中湖の北側にある「体験学習センターわたらせ」で、渡良瀬遊水地研究所長の白井さんから渡良瀬遊水地の自然や成り立ちの説明を受けました。概要は次のとおり。



渡良瀬遊水地にて

ここ渡良瀬遊水地は、渡良瀬川、思川（おもいがわ）、巴波川（うずまがわ）が合流する地点で、かつては谷中村という農村があった。地形的に周辺より一段低く、洪水が起きやすい土地。明治の中ごろ、当時、殖産興業という時代背景があり、渡良瀬川流域では足尾鉍毒事件が発生し、魚は死に、農作物は不作となり、農民は苦しめられていた。佐野市の衆議院議員田中正造氏は、農民を救

うため鉍毒問題を国会で取り上げ、社会問題にまで広げた。

このようなことの後、政府は、明治39年に谷中村を廃村とし、渡良瀬川の鉍毒を中和するための渡良瀬遊水地改修事業を明治43年から開始し、昭和5年に完成させた。その後、たび重なる洪水が発生したので、昭和45年、昭和47年、平成9年に調節池が設けられました。

以上の結果、現在の渡良瀬遊水地ができた。ここには広大なヨシ原があり、貴重な動植物が数多く確認されている。平成24年7月にはラムサール条約湿地に登録されたので、国際的な基準に沿い、湿地生態系の機能や湿地から得られる恵みを持続させるよう管理しなければならないことになったとのこと。

説明を受けた後、付近を散策すると、谷中村役場跡や神社跡、お墓もあった。細い道までちゃんとしていた。110年よりも前は、ここは人々の生活の場であった。今は大自然の中、野鳥や動植物が主役となっている。長い歴史を経て今の渡良瀬遊水地ができたことを知りました。教えてくださいました渡良瀬遊水地研究所長様にこの場をお借りして感謝いたします。

午後は、五霞町にあるヤクルト茨城工場です。敷地面積は44,800㎡、東京ドームとほぼ同じ面積、従業員は103名。ニューヤクルト、ヤクルト400LT、ヤクルトゴールドなどを製造して

いる。環境配慮への取組としては、工場廃棄物を可能な限り再資源化しているとのこと。省エネルギーにも努め、二酸化炭素排出を抑制している。排水処理ではヤクルト容器を利用した A & G 水浄化システムを導入している。具体的には、



見学者用トイレの合併処理浄化槽の中に孔をあけたヤクルト容器を入れ、浄化している。水が浄化される仕組みは、水中に生息する種々の微生物が水の汚れの原因物質を栄養分として取り込み、分解することで水を浄化してくれる。浄化槽が高度に機能するためには、槽の中にいかに多くの微生物を住み着かせるかにかかっている。孔のあいたヤクルト容器の中を水が流れることで、容器の内外面に多くの微生物が住み着くことが可能となる。このように、ヤクルト茨城工場では、衛生的なヤクルトを製造することはもちろんのこと、それ以外に自社の容器を利用した高度な排水処理を行っている。

面

第11回子育て応援まつり

報告：宮田

平成28年12月11日（日）、ウェルス幸手にて「子育て応援まつり」が開かれました。中央ステージでは合奏やダンスなど年齢問わず楽しめるプログラムで賑やかでした。

さって市民環境ネットは、活動を紹介する「パネル展示」と「親子で作ってあそぼ」をテーマに行い、約160名の参加がありました。活動紹介ではエコライフDAY、緑のカーテンなどのパネル展示を中心に説明、親子で作ってあそぼコーナーでは、アンパンマンのジグソーパズル、折り紙とんとん相撲、糸電話、紙コプター、フーフーボール、ふわふわ踊りネコ、磁石で釣りゲーム、紙の飛行リングなどの遊びをスタッフ8名と女子中学生ボランティアの2名で対応しました。

去年は上映出来なかった映写会も、「クリスマスキャロル」「かさこ地ぞう」「アンパンマンとばいきんまん」「母を訪ねて三千里」の4本を上映しました。

今年は釣りゲームに釣竿づくりもプラスして、自宅に持ち帰ってからも継続して遊べる様に工夫し、折り紙とんとん相撲では真剣勝負を繰り広げる男の子や個性あふれる作品を沢山作ってくれました。糸電話を親子で作り、その場で楽しむ様子は私たちも笑顔にしてくれました。子どもたちの集中力はすごく、時間をかけて丁寧に取り組んでいました。



第 3 回市民環境講座・野鳥観察会に参加して

報告 藤城

1月28日(土)午前9時から「第3回市民環境講座野鳥観察会」が開催されました。参加者は一般参加者21名、スタッフ8名の合計29名。北公民館で講師の埼玉県生態系保護協会の青柳先生から観察の注意事項を伺い早速、中川へ向かいました。

風も弱く日差しも暖かい絶好の観察日和。第1のポイントの外野橋からは川辺のイカルチドリやコガモ、マガモを先生の望遠鏡で観察。何度見ても雄のカモは色彩がくっきりと美しい。さちネットが用意した新しい双眼鏡も見ながら第2ポイントの行幸湖へ。ここでは、オオバン、カワウ、セグロカモメ、ヒドリガモが見られたが対象が遠いので各自持参の双眼鏡で観察。



見つめ合うオオサギとコサギ

中川沿いに移動しながら第3ポイントの干潟へ。土手の上から見ると寒い日には同じ種類ずつ固まって動かずにいる鳥達が、暖かいせいか、せわしなく動いてエサをついばんだり、ゆったり休んでいる。動きの早いカイツブリや長い口ばしのタシギも何かを探して岸辺の上をつついてしている様子。“ゴカイを取っているんですよ”と先生から説明があり、望遠鏡を順番でのぞき込む。“タシギって田んぼのシギなんですよね!”と誰かが声を上げ、“そうなんだ”とうなずく人。オオサギ、コサギも見られたが、“チュウサギはいないんですか?”の質問に“夏鳥のチュウサギは夏しか見られません”と先生が答えて、皆始めて知ることが多くありました。

第4のポイントは高須賀池。間近に鳥が見られ、いつも楽しみにしている。今回もバン、オオバン、アオサギが待っていました。暖かい芝生の上に黒い鳥が12~13羽いて、何かとよく見たら、白いくちばしのバンの群れ。私たちに驚いて水辺に降りていってしまったが、人がいないと芝生の上にいるのにびっくりした。また1羽のオオバンが浮島にいるのでよく見たら、足に釣り糸が絡み付いている様子。赤い浮きが付いているのが痛々しく、釣りをする人は使ったものは忘れず全部持帰って欲しいと思いました。それから私たちが観察しているうちに飛んでいったアオサギ、人がいなくなったら元の場所に戻ってきました。すると大きなアオサギを中心に左右に中くらいの鳥、小さい鳥が同じような間隔を保って一列に太陽に向かってじっと立っている。この姿がとても印象的で心に残りました。

帰り道でいつもの所でいつものシメの声を聞き、小さな鳥の姿を見て“久しぶりだね”と声をかけたくくなりました。齢を重ねたせいか、いつもの所で、いつもの鳥に出会うのはとても嬉しい

事です。“家のまわりでも、いつも良く観ていると珍しい鳥が見られますよ”との青柳先生のお話を伺いこれから身近な場所も注意して見ようと思いました。

今回は33種類の鳥を観たり、声を聞いたりできました(私は1/3くらいでした)。次回も楽しみにしているよとの声が多くありました。先生ありがとうございました。青柳先生も皆さんもお元気で、また来年お会いしましょう。



全員で 高須賀池にて

第 1 4 1 回腐葉土と野菜づくりの会

報告：澤村

7月17日（日） 16時開始、天気；曇り 出席者数；14名。

今回の作業：草取り、奥マメの苗が移植後枯れないように、夕方開始。

初めはサツマ畑の草取りとつる返し、奥マメ苗植えの畝づくりの2グループに分かれて作業し、植付けは全員で実施しました。数日前まで時々雨が降り、前日からの曇りで土が柔らかく作業がし易い状態でした。7月2日に播いた約1,000個のマメが20cm位と少し伸び過ぎた茎となっていました。クワで根を切らないように全て掘り起こしました。



30cm 間隔で苗 2 本ずつね！

クワを使って約70cm畝幅で深めの溝を掘って畝をつくり、水をタププリやり、約30cmの株間隔で苗2本ずつ（4,5cm間隔）子葉（双葉）を残す程度に土を掛けました。その後、更に水をタププリやりました。サツマイモは、生長の遅れている株もありますが、昨年と比べて枯れが少ないようでした。先に地主がトラクターで畑を耕してくれていたため、今回作業でき、いつも地主にお世話になり感謝申し上げます。

第 1 4 2 回腐葉土と野菜づくりの会

報告：澤村

8月7日（日） 猛暑を考慮して午後5時開始、天気；晴、出席者数；8名。

今回の作業：草取り。サツマイモ畑を除いて雑草が繁茂してしまっていたので、急きょ連絡網で案内をして臨時開催しました（次回までに途中草取り開催を宣言していましたが、出席者数が8名と少人数）。夕方5時でしたがまだ蒸し暑く汗びっしょりで、全体の雑草をとり、残りの雑草は21日（日）の定例会で実施することにして6時15分で作業を止め解散しました。

8月21日（日） 午前8時開始、天気；晴、出席者数；16名

今回の作業：畑の草取り、熟成腐葉土の頒布、奥マメの土寄せ、サツマイモのつる返し、ダイコンの種まき前の鶏ふんの散布。

作業は、畑に全員が移動して、次回のダイコンの種まき畑の草取り、台風到来が予想されるため奥マメの土寄せ、サツマイモのつる返しが遅れるとイモが大きくなならないことから畑作業を優先しました。気温はやや低めでしたが大変蒸し暑く、汗びっしょりの作業でした。まずは大半が草取りを担当し、一部の人で奥マメの土寄せとサツマイモのつる返しを行いました。草取り後、ダイコンの種を播く用地に粉末タイプの鶏ふん（堆肥に近い）を散布しました。昨年の反省から粒状の鶏ふんは止めました。畑作業を終了後、全員が桜泉園に戻って熟成腐葉土を袋詰め・頒布して解散しました。

【会員募集中！】環境保全活動を一緒にやっていただく方を募集しております。是非、貴方も参加しませんか。〔さって市民環境ネット〕★問い合わせ 澤村邦夫（代表）まで TEL 0480-42-3384

幸手の環境活動グループ：幸手権現堂桜堤保存会、権現堂川地域環境保全協議会、幸手自然愛護会、幸手ひがし幼稚園、エコ・グリーン幸手、くらしの会、上高野婦人会、倉松探検隊、幸手中央ロータリークラブ、すこやか「食」の会、子育て支援ねっとわーく、いきがい・はなみずきの会（いきがい大学伊奈学園20期）